

特集

澤藤電機にできる災害支援

近年増加している自然災害に対し、社会貢献活動の一環として『澤藤だからできること』をコンセプトとして、災害ボランティア車を製作し、活動準備を行いました。

澤藤電機の商品には、災害に対応できる発電機、冷蔵庫があり、また、インバータ、バッテリーに関する技術をもっており、被災地のニーズに合わせて『すぐに・簡単に』提供できることを活動の基本としております。

今後、災害時においては、日本のほぼ中心である澤藤電機本社をベース基地とし、すぐに全国に移動できる災害ボランティア車をモバイル支援基地として災害支援活動を行っていきます。



省エネ冷蔵庫 Pacificool (パシフィックール) 販売開始

車載用冷蔵庫「ENGEL(エンゲル)」を50年以上製造販売している澤藤電機が、新たなブランド「Pacificool (パシフィックール)」の販売を開始しました。

Pacificoolは電気式コンプレッサのため冷却性能が高く、最大マイナス18℃まで設定が可能です。冷凍・冷蔵どちらにも対応します。ENGEL 冷蔵庫同様に「静粛性」「高性能」「省電力」の3拍子が揃っており、更なる省エネをめざし運転モードにECOモードを初搭載し、通常モード対比14%の省エネを達成しました。屋内でのサブ冷蔵庫や、レジャーでの使用はもちろんのこと、「省電力」であることで、災害時電力供給が限られた状況下でも、ポータブル電源や車からの電源供給により作動可能で、幅広いシーンで活用いただけます。

安心の国内メーカー販売、1年保証付き。

車載用冷蔵庫製造販売
50年以上の実績！
老舗・澤藤電機による販売です。



特集

クオリティーフォーラム 一般事例発表

一般事例発表：5年連続5回目

【クオリティーフォーラムとは】

日本科学技術連盟の主催で、品質月間の11月に毎年開催されています。時流に合った企画講演、日本品質奨励賞受賞企業による記念講演、管理・監督者による一般事例発表で構成されています。

【開催日】 2020年11月25日(水)～11月26日(木) 【場 所】 東京一ツ橋 日本教育会館 リモート開催

一般事例発表(11月26日)

『レーザ溶接における、応答曲面法を活用した良品条件の確立』と題し、アルミ材における溶接条件をSQC手法を活用して見極めることができた事例を生産技術部の佐藤さんが発表しました。コロナ禍ということで会場での発表ではなく、リモート開催という形ではありましたが、素晴らしい事例発表となりました。



事例発表風景



リモート風景

トピックス

NEDO 委託事業

NEDO 委託事業「カーボンリサイクル・次世代火力発電等技術開発／次世代火力発電技術推進事業／カーボンリサイクル技術の共通基盤技術開発」に委託先として採択されました。

澤藤電機株式会社、国立大学法人東海国立大学機構(岐阜大学)、川田工業株式会社との共同開発テーマ「放電プラズマによるCO₂還元・分解反応の基盤研究開発」が、NEDO^{※1}の公募した委託事業^{※2}に採択されました。

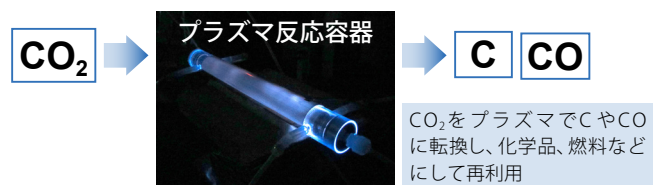
※1 国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構

※2 カーボンリサイクル・次世代火力発電等技術開発／次世代火力発電技術推進事業／カーボンリサイクル技術の共通基盤技術開発

本事業は、カーボンリサイクル技術の分野の中でCO₂還元技術の開発に着手し、将来のCO₂有効利用技術の社会実装につなげていくことでCO₂の排出削減に貢献していくことを目的としています。

当社は従来より、プラズマを用いた水素製造装置「プラズマメンブリアクター(PMR)」の技術開発を行い、アンモニアを原料にして水素を製造することで、CO₂フリーの水素社会の実現に取り組んでおります。

今回、共同開発テーマである「放電プラズマによるCO₂還元・分解反応の基盤研究開発」にプラズマ研究で培った技術を応用し、CO₂を還元してカーボンと一酸化炭素に転換する技術を開発することで環境課題の解決に取り組んでいきます。



【共同事業者】

国立大学法人東海国立大学機構(機構長：松尾清一)

川田工業株式会社(代表取締役社長：川田忠裕)

参照：NEDO プレスリリース

https://www.nedo.go.jp/news/press/AA5_101340.html

トピックス

定温輸送保冷庫の開発

バイオ医薬品やワクチン等の輸送用「定温輸送保冷庫」を開発 ——マイナス20℃連続運転、省電力を実現 GDP※対応——

【※GDP(Good Distribution Practices)】

医薬品の流通過程の適正管理を求めるガイドライン。日本版は2018年発行。医薬品の流通過程の温度管理を行い、品質を維持することが求められている。法的拘束力はないが、医薬品メーカーは物流業者と輸送業務手順書を定め温度管理等を徹底する必要がある。

澤藤電機株式会社は、エスペック株式会社（以下エスペック）と協業により、マイナス20℃連続運転、省電力、ポータブル型を実現した「定温輸送保冷庫」を開発しました。本製品はGDP（医薬品の適正流通）ガイドラインに対応しており、バイオ医薬品やワクチン、再生医療細胞等を安定輸送することができます。2021年4月にエスペックより発売中です。

近年、バイオ医薬品や再生医療細胞等の研究が進んでいますが、これらの輸送においては、含まれるたんぱく質や幹細胞・組織にダメージを与えることなく一定の温度を維持しながら輸送する必要があります。

また、2018年には日本版GDPが発行されるなど医薬品輸送時の適切な温度管理が求められています。

さらに、新型コロナウイルスワクチンの流通における温度管理が喫緊の課題となっています。

環境試験器を手がけるエスペックと協業により開発した「定温輸送保冷庫」は、バイオ医薬品や新型コロナワクチンなどの輸送保管で求められるマイナス20℃、プラス5℃などの複数の温度帯に対応。精密な温度制御を行うことで、庫内の温度ムラを冷蔵輸送（プラス5℃）ではプラスマイナス3℃以内、冷凍輸送（マイナス20℃）ではプラスマイナス5℃以内に抑えました。また、振動に強く、省電力、ポータブル型のため、医薬品倉庫から医療機関といったラストワンマイルの自動車輸送に適しています。さらに、温度ロガーを取り付けることによりGDPで求められる温度の厳格な測定・記録・管理が可能です。

医薬品用保冷庫の方式として多い保冷剤式は、温度維持時間に限界があり、輸送時の温度の逸脱や輸送物の凍結・過冷却といった課題があります。本製品は3種の電源（車載用、屋内用、携帯用）を用意することで、シーンに合わせて温度を維持できます。

当社は長年にわたる車載ポータブル冷蔵庫で培った信頼性、温度制御技術を活用し、医薬品分野での事業拡大をめざしています。定温輸送保冷庫の供給を通じて、医薬品の安定輸送を実現することで安心・安全な医薬品の流通を支援してまいります。

定温輸送保冷庫の特長

1. 冷蔵輸送（+5℃）にて±3℃以内、冷凍輸送（-20℃）にて±5℃以内の精密温度制御を実現
2. 振動に強く、省電力、ポータブルのため医薬品倉庫から医療機関への自動車輸送に最適
3. GDP対応の温度ロガー、保冷庫のバリデーションサービスを用意
4. 車載用・屋内用・携帯用の3種の電源に対応、輸送だけでなく保管や持ち運びも可能

定温輸送保冷庫の仕様

| | |
|---------|--|
| 温度範囲 | : -20 ~ +40℃ |
| 庫内温度均一性 | : ±3℃ (+5℃時)、±5℃ (-20℃時) |
| 電源 | : DC12V (車載用)、 AC100V (屋内用)、携帯バッテリー |
| 容量 | : 8.4L |
| 外形寸法 | : W442×D284×H398 (mm) |
| 重量 | : 12.8kg |
| オプション | : GDP対応温度ロガー、 バリデーション、校正など |



定温輸送保冷庫

トピックス

省エネ大賞 経済産業大臣賞(輸送分野) 受賞

澤藤電機製モータ、バッテリーパックが搭載された大型ハイブリッドトラックが省エネ大賞 経済産業大臣賞(輸送分野)を受賞しました。

澤藤電機株式会社は、2019年5月より日野自動車株式会社の大型ハイブリッドトラック「日野プロフィアハイブリッド」向けに大型ハイブリッドモータ(以下、HVモータ)、バッテリーパックの生産・販売をしております。この度、当該製品が採用されている「日野プロフィアハイブリッド」が、一般財団法人省エネルギーセンター主催「2020年度省エネ大賞」の最高位となる経済産業大臣賞(輸送分野)を受賞しましたのでお知らせいたします。

大型長距離トラックはその走行形態から高品質・高性能な稼働が求められております。そのためHVモータはその走行特性に合わせた高出力・高効率なものとしており、バッテリーパックは、大容量・高品質が求められるため、専用工程でバッテリーセルをパック化するところから自社で一貫生産しております。いずれもお客様のご要求に合わせ安定供給できる体制を整えています。

今後も商用車の車両電動化におけるリーディングカンパニーとして、環境適合製品を開発・製造・販売し、社会の持続的な発展に貢献いたします。



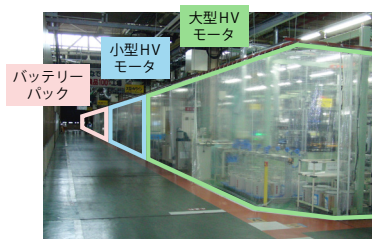
日野プロフィアハイブリッド



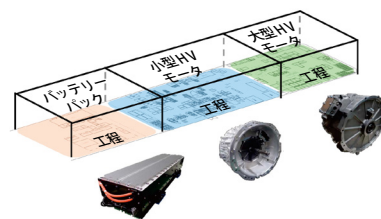
大型HVモータ



バッテリーパック



工程外観



工程イメージ図

ステークホルダーとの対話

澤藤電機では、お客様、地域社会、株主・投資家様、代理店・特約店様、仕入先様、社員などさまざまなステークホルダーとの対話を重視したCSR経営を推進しています。

地域住民との対話

地域社会と会社との関係を良好に保ち、かつ会社に対する理解を深めていただくために、近隣の地区役員の方々との情報交換会を定期的に行い、近隣からのご要望、ご意見に対して迅速に対応できるよう連携をとっています。



地区役員の方々との情報交換会

※ 新型コロナウイルス感染症が拡大している情勢を受け、感染症対策をして、開催しております。

福祉施設の皆様との交流

地域社会の社会貢献活動の一環として、会社と労働組合が合同で近隣の福祉施設6カ所をクリスマス訪問いたしました。社員からのカンパ金でクリスマスケーキとお菓子のプレゼントをお渡ししてきました。

新型コロナウイルス感染症対策として、交流の時間を最小限に抑えての実施となりましたが、施設の方は澤藤サンタを毎年楽しみにしてくださっていると、訪問を大変喜んでいただけました。

福祉施設の皆様との交流会
(2020年12月18日)

